障害者相談支援センターるーぷる　広報誌　No.28

2013
11月

# るーぷる

## 秋号

## 実習生から見たるーぷる

福岡県立大学3年
稲垣理沙

私が初めてるーぷるに来たときの印象は“シンプルだな”というものでした。

白い壁に周りにはレンジや冷蔵庫などの家電、真ん中にはテーブルやたくさんのイス。そして交流広場7番地と職員の机の間には仕切り代わりにひくい棚。

とても開けた場所であり、障害者支援センターと言われたら「事務的な窓口に空間」というイメージだったので、るーぷるを見たときは本当に予想とは違った場所でした。

また利用者さんも様々な方が来ていて、夫婦で来られている方、おしゃべりで明るい方、静かに将棋を指されている方、みんなで話している方もいれば一人で過ごす方もいる、職員の方も机で業務をしている人、7番地で利用者さんとおしゃべりをしている人など、本当に自由という感じの場所でした。

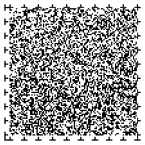
そしておしゃべりだけでなく、7番地にいるときにポロっと今日の辛かった出来事を相談する方、個別で相談室で相談する方、メールや電話で相談する方。自分に合った相談の仕方を自分で選べることは、もし私が利用者だったならすごくありがたいなと感じるだろうと思いました。

実習生の私も勉強するときは勉強し、利用者の方と自由におしゃべりしたり、たまに職員の方に話を聞いてもらったり質問したりと自分のペースで過ごせる場所だと感じました。

相談支援センターといっても、初対面の人にいきなり自分の悩みや思いを相談することは、とても緊張するだろうし、勇気が必要なことではないでしょうか?私はそうです。だからこそるーぷるのような自分のペースで自由に過ごせる場所はとても居心地が良いのではないかと思いました。

相談支援センターがただ相談を受け支援するだけの場所ではないのだと職員の方はもちろん利用者の方からも学びました。

るーぷるにかかわることができ、よかっ



たと思っています。ありがとうございました。

### 西南学院大学3年
### 武田萌恵子

私が初めてるーぷるに実習に行った時、広報誌「るーぷる」をみて、「SPコード」というものを知りました。「SPコード」は、専用の装置に通すと活字文書を読み上げ、紙面の情報を音声で伝えてくれるというものです。

職員の方に詳しく聞いたところ、携帯電話を装置の上に置くことで、音声で聞くことができるそうですが、対応している携帯電話が1社しかない状態だそうです。

読み取り装置自体は、るーぷるの他に市役所などにも設置されているようで、今後、公共機関などで導入が進んでいけば良いなと感じました。

実際に目を閉じて「SPコード」を読み取ってみました。広報誌のサイズや紙の素材に使いづらさを感じました。

私は、みんなが使えるユニバーサルデザインとして導入してあることに何の違和感も感じませんでしたが、統一したデザインにすることですべての人が使いやすくなるとは限らないのだと学びました。

しかし、ユニバーサルデザインにすることは、「SPコード」の啓発にもつながると思います。だから今はその段階にいるのかなと思います。

みんなが「SPコード」のことを理解し、社会に普及していけば、「SPコード」読み取り専用の紙が出来たりなど、本当の意味で、障害の有無に関わらず、全ての人が使いやすいものに改善されていくものだと思います。

ユニバーサルデザインのその先までいくことが大切だということを「SPコード」を通して学ぶことができました。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

### 当事者の声
## 今の世の中
### 箕浦康泰

今のぞみに行っています。その中で職安にも月1回自分で行っています。仕事を探していますがなかなか自分に合った仕事がありません。

自分が思うのは冷たい時代になっていると思います。本当に仕事がないでしょうが自分のことだけでいい、人のことはどうでもいい、これでいいのかと自分は思います。

将来のことを考えていますが先にいくのは母です。今は自分と一緒にいますが一人になったとき不安です。なるべくお仕事につき一人になっても自分でできるようになりたいとつくづく思います。

でも、母の考えではしせつにいれる考えのようです。自分ははいりたくないです。一日でも早く仕事につき安心できるような生活を送りたいと思っています。

だから今仕事がない状態ですが障害者を受け入れる理解のある企業があれば自分はとてもうれしく思います。前向きに生きたいと思います。

あきだなー
さんまがおいしいよう
くりもおいしくて
ほっぺがおちそうですよう
ゆうだい

秋風に　そよぐ空
気持ちよさを　かんじる季節
中村義徳

## お知らせとご案内

### ○福祉まつりで バザーを行いました

去る10月7日、直方市社会福祉協議会主催の福祉まつりがありました。今回は初めて、「るーぷる7番地のゆかいな仲間たち」でバザーを出店しました。

バザーを開くことにしたのは、交流事業をしたいというるーぷる7番地の利用者の方々の意見が始まりでした。交流事業を行うためには費用がかかります。それを賄うために、バザーをしようということになりました。

バザーを開くに当たり、沢山の方々から協力をしていただきました。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

**売上総金額（準備段階と当日の売り上げと寄付金を含む）**

**62050円**

### ○バザーの収益金で交流会 手作りパンにチャレンジ！

7番地のゆかいな仲間たちと一緒にマヨネーズパンを作りませんか？

日時／12月8日（日）11時から14時

集合時間／10時半から10時50分

場所／男女共同参画推進センター（調理室）

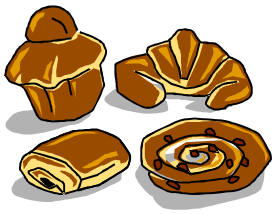
内容／パン作りの先生と一緒にパンを作り試食する

持ってくるもの／エプロン

費用／500円（お土産つきです）

申し込み／11月20日（木）までにるーぷるにご連絡ください

電話／0949-25-7010



## たこ焼きでお別れ会

松尾さんとのお別れに、たこ焼きパーティを行いました。7番地の方々が中心となって、美味しく楽しいお昼の時間でした。

短い期間でしたが、お世話になりました。11月から、福岡市の施設で働きます。皆さんの笑顔を糧に頑張ります。

松尾哲也

## ○原稿募集

次回は2月発刊です。原稿の締め切りは12月末。紙面の都合で1，200字以内。

あなたの思いを文章や詩、イラスト、写真などに込めて。また、友達募集やサークル活動案内などなど・・・。何でも頑張って載せちゃいますよ（デキルカギリ）

## ○編集後記

★ 後藤美津枝

私は毎月編集会議等で、るーぷるに行っています。以前は車をどこに止めようかと困ることもありましたが、今は屋根つき障害者専用駐車場ができ、そこを利用させていただいている一人です。

でも過去に二度そこに止められなかったことがあります。一度目は乳児検診に来ていた若いお母さん。二度目は二人づれの女性でした。どちらも悪びれた様子はなく、注意されたことに不機嫌そうな顔をして立ち去りました。

何のための、誰のための駐車場でしょう。こんな、誰でもわかるだろう常識がわからないのかと、悲しくなりました。

今「おもてなし」という言葉をよく耳にしますが、人が人を思う「おもいやり」も大切ではないでしょうか。人をおもう心は、相手の身になって考える想像力が、不可決だとおもいます。

それはただ考えただけで広がるものではなく、多くの人と関わり、いろんな体験をし、学んで「おもいやり」という心の輝きが磨かれていくのかもしれません。その輪が幾重にも広がった社会になればと願います。

## るーぷる　業務案内

### 相談窓口

火～土　8:30～17:00　来所・電話・FAX・Eメールにて、生活全般に関する相談を受けています。

### 交流広場７番地

火～土　8:30～17:00　どなたでも気軽に立ち寄れるフリースペースです。

ご自由におくつろぎください。お茶、電子レンジ、パソコン（インターネット）などが無料で利用できます。

### サービス等利用計画作成

福祉サービス（障害者自立支援法に定められたもの）を利用中または利用予定の方の相談を受け、利用計画を作成するなどして福祉サービス利用を継続的に支援します。

### 広報誌るーぷる

年４回発行予定。ご自宅への郵送もいたします。視覚障害者向けに点字版・カセットテープ版・ＳＰコード版があります。読者投稿は随時受付中です。

［るーぷる　№・２８］　発行・編集／障害者相談支援センターるーぷる〔広報誌るーぷる編集事務局〕

TEL：０９４９－２５－７０１０　　FAX：０９４９－２２－６０８８

E-mail：s-life-support-c@tempo.ocn.ne.jp